

「トロンによる多漢字利用システムの構築」

（平成 14～17 年度 特別推進研究「トロンによる多漢字利用システムの構築」）

所属・氏名：東京大学大学院情報学環・教授・坂村 健

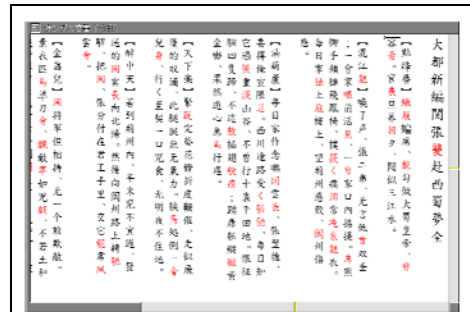
1. 研究期間中の研究成果

・背景（事象の初歩的な説明）

東アジア地域では「漢字」という世界的にも最も大きな文字セットを用いて文書が記述されている。これまでの情報技術では大量の文字を扱う技法が十分に確立しておらず、東洋文化研究においても情報技術が十分に活用されていなかった。

・研究内容及び成果の概要

本研究では、多漢字をコンピュータ上で扱うための基本的なコンテンツである漢字フォント（T フォント）38 万文字を構築した。更に、それを利用するためのフォントトレサビリティシステムや多漢字入力システム、Web システムなどを構築し、更にそれを用いた甲骨データベースなど、東洋文化研究に活用する手法を研究した。



T フォントを使って表現された漢籍コンテンツ

2. 研究期間終了後の効果・効用

・研究期間終了後の取組及び現状

研究期間終了後は、T フォントの公開に向けた、漢字の重複チェックや字形の不備などのチェックを行い、不具合を修正した上で、2011 年 2 月に、最初の 23 万文字分の公開をインターネット上で開始した。他にも、フォントトレサビリティシステムや多漢字入力システム、多漢字を扱う Web システムなど、多くのシステムが実用化された。



T フォントに含まれる甲骨文字セット

・波及効果

本研究成果によって、日本において多くの種類の漢字をコンピュータ上で扱うことが可能になり、東洋文化研究といった学術的分野だけでなく、書籍の印刷・製版分野や戸籍等の行政文書分野など、実用的な部分においても、多大な影響を与えた。更に、この漢字処理のアーキテクチャを更に一般化させることで、ユビキタスコンピューティングの基盤アーキテクチャであるユビキタス D アーキテクチャへと発展させることに成功した。